

---

# クロスオーバー・単発系短編集

Corpral

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

クロスオーバー・単発系短編集

### 【Nコード】

N8542R

### 【作者名】

C o r p r a l

### 【あらすじ】

ただのクロスオーバー・単発系短編集です。基本音声MAD的なノリでカオスです。ほとんどが電波受信と思いつきから成り立っています。ご了承ください。

## IS × アーマードコア(前書き)

このSSはコメディ系のノリで展開されます。

バトル系ではありません。

なおイメージはアーマードコアとエースコンバットシリーズの詰め合わせMADです。

IS × アーマードコア

「篠ノ之束？……ああ例の逝かれマッドか」

「侮るな、優秀な科学者と聞いている 脅すぞ」

「いかん！そいつには手を出すな！」

「これは面倒なことになった……」

「依頼主はいつものデュノア社」

「やるか？」

「篠ノ之束、天才気取りも今日までだな 貴様には、水底が似合  
いだ」

「そんな機体で勝負する気が ……なめられたものだ」

「命令だ 死んでくれ」

「力を持ち過ぎたもの 秩序を破壊するもの プログラムには不要だ」

「……終わりにしましょう」

「秩序を、世界を破壊する それがお前の望みなのか？」

「なんとということ……」

「じよ、冗談じゃ……」

「てめえのやったことだろうが！ マッハで前に出るよ前に！」

「やりすぎたんだ お前はな！」

「ターゲット確認 排除 開始」

「消えろイレギュラー！」

「無謀だったな 他の奴等と同じだと思ったか？」

「あばよ、酔っ払い・・・」

「これで終いか」

「・・・結局、」

「何をしに現れた・・・？」

「遅かったじゃないか・・・」

## IS × アーマードコア(後書き)

最後の二人の台詞は所謂オチです。

つまり要約すると

「あいつ(束)、何をしに現れたんだか理解できん……………」

「今更何を言ってる……………」

ということ。スミカ・ユートイラインンです(……………)ノシ

IS × ガンダム（前書き）

誰もがやりそうで、誰もがやらない。

誰もが妄想し、誰もがカタチにしない。

そんな電波を受信したので書いてみた。

プロローグ風です。

多分続きません。

## IS × ガンダム

それは、何の前触れもなく唐突に現れた。上空から栗のような巨大な円筒状の構造物が大気圏突入、それを突破すると地表に向かって降下した。そしてそれが地上に音を立てて到着すると、ハッチらしきものが外に向けて開き、その中から巨人が現れた。

それはただの巨人ではなく、機械仕掛けのものだった。

脚は全体的にむっちりした構造で、外側の太ももとふくろはぎにビーズ状の外装で保護されているパイプが膝を避けるように繋がっていた。

右肩にLを上下逆にしたシールド、右手にフリスビー状の円盤を付けた薄黒い変わった形の銃を、そして左肩に3本のスパイクを付けた丸い覆いを搭載していた。

そして胴体は胸に当たる部分は平べったく、背部にはランドセルを思わせる箱に1対のバーニアノズルを搭載し、腰部には側面にスリスビー状の薄黒い円盤と紫の小斧を装備したスカート状の装甲があった。脚にもあった1対のパイプが、腹部からランドセル状の箱の両脇に繋がっていた。

さらに頭部はどこことなく石頭の恐竜に似たデザインで、脚や胴体のもと同じパイプがガスマスクの垂れた口に見える部分の両側と後ろにある出っ張りの両脇に繋がっていた。両脇に小窓のようなものがあるキャノピーの奥に、一つ目を思わせる桜色のレンズのカメラを装備していた。

最後に全体的に緑色をしていた。胴体は常緑樹並に濃く、それ以外は竹のように薄かった。

その巨人の名はZAKU<sup>ザク</sup>。ザクは独特な駆動音を立ててカメラアイを煌かせると目の前に広がる大地に、脚を進ませた。重量感溢れる最初の一步だった。

モビル・スーツ。

通称「MS」と呼ばれるそれは、宇宙世紀と呼ばれた世界に君臨する兵器である。それが踏み入れた世界は宇宙世紀の世界ではなかった。

インフィニット・ストラトス。

通称「IS」と呼ばれる兵器が君臨する世界だった。

お互いが存在するには時代も技術も風潮も違い過ぎた。だがある共通点があった。それは宇宙作業用という目的で開発されながら、兵器に転用されたこと。そしてそれらの世界情勢を象徴する存在であったことである。違いと言えばその中身である。片や地球に住まう<sup>アースノイド</sup>者と宇宙に住まう者の対立の象徴であり、片や女尊男卑の象徴である。

その共通点が、MSをこの世界に呼び寄せたのか？ミノフスキー粒子が原因か、それともサイコフレームが原因か？それは定かではない。だがこれだけは言える。

世界は狂い始めた、と。

IS × ガンダム（後書き）

多分続きません。

もう一度言います。

多分続きません。

そもそもISがサイコフレーム標準搭載レベル（要はスパロボ的な側面がある）だということ、作者がリアル系派であることが大きいかと。

……ん？逆シャア？観てないから無理。ジオニックフロントやるのに忙しいし。

## ブリュンヒルデの白い悪魔（前書き）

元々四月馬鹿用に書いた。

……結局、間に合わなかったがorz

とある作品の内容をモチーフにしています。

しかもその作品が比較的マイナーな部類のため、ほとんどわからないとは思いますが。

## ブリュンヒルデの白い悪魔

とある市街地を模した仮想空間

それは新型ISの戦闘データを解析して作られた、ただの戦闘シミュレーションのはずだった。

だが今の現状を見たら十中八九必ずこう思うだろう。

まるで虐殺じゃないか。

そう思われる程、戦闘は一方的なものになっていた。

私は今、目の前の現実を見ている。それも最悪なものを。

一機また一機と撃墜（判定）される友軍IS。

イグニッションブーストからの斬撃により大破する僚機。

奇襲するも、従来のそれを上回る機動力で回避され、逆に反撃されて撃破されてしまう。

しかもその背後に忍んでいた筈のステルス性に特化した第3世代のISが、振り向きもせずに一閃された。

極め付きに敵前逃亡を図った最速の第2世代カスタム機が、イグニッションブーストで一瞬の内に追い付き、袈裟斬りにされた。

それもたかが一機のIS、しかも刀一本で。

反撃も、回避も、一時撤退もままらない。

それを悪夢以外何と呼べるのか。

だから、悪態をついた私は悪くないはずだ。

「……………第4世代のISは、化け物か!？」

それは世界に2機しかない第4世代ISの内の一機、「ごまへんこ機白式」。

元々は日本のIS企業が設計開発し、開発が頓挫して欠陥機として凍結されていたものを束が完成させた機体である。

雪片式型という刀剣が、白式の唯一の武装である。ハススロット拡張領域を全て使っており、イユライザ後付装備が不可能であるという。

さらに零落白夜という単一仕様能力を持ち、対象のエネルギー全てを消滅させる。相手のエネルギー兵器による攻撃を無効化し、シールドバリアーを斬り裂いて相手のシールドエネルギーに直接ダメージを与えられるという白式最大の攻撃能力である。だが欠点として

白式自身のシールドエネルギーを消費する諸刃の剣。ちなみにかのブリュンヒルデ、織斑千冬の乗機であった「暮桜」と同じ能力だという。

そんな化け物にIS部隊は彼女、サンドラを除いて全滅した。

そんな状況下の中でサンドラは諦めていなかった。いや、開き直ったと言っべきか。

サンドラは元々IS登場前から軍役に就いているベテラン軍人である。

男性兵士顔負けの実戦経験と実力に加え、ワイルドな言動と制服をラフに着たおすというまさに女傑と呼ぶにふさわしい存在であった。

それらとIS適性の高さを買われてIS部隊に編入され今に至る。

「まさかこれほどは……」

サンドラはそれまでの戦闘を、ビルの物陰に潜みながら思考する。

確かに新型というのは高性能であることが多かった。試作機となればなおさらだ。

だが今回ののは異常だ。余りにも強過ぎる。過大評価した設定か。

だからといって諦める訳にはいかなかった。与えられた任務を遂行しなくて何が軍人だ。

彼女はワイルドさ以外に、プロフェッショナルさを持ち合わせていた。

サンドラのIS部隊での役割は、敵に致命的なダメージを与える「フィニッシャー」である。

正確にはそれを好む節がある。

そのため彼女のISは、火力と機動力を重視したコンセプトの第2世代機「トルーパー」を愛用している。

そんな彼女だからこそ選んだ戦術は、突撃だ。

勿論ただの突撃ではない。サンドラは白式の姿をビル陰からスプレッドビームをいつでも照射できる体制にした。

そしてサンドラは腰部と脚部のスラスターを派手に噴射させ、その膨大な推力で白式に向けて突っ込んだ。

白式がサンドラを認識するとスプレッドビームが発動するのは、ほぼ同時だった。

スプレッドビームにより、その場から行動不能になる白式。

そんな白式に右肩に担いだロケットランチャー型兵装、ラケーテンを構えた。網膜に二重の円盤が映っていた。照準レクティルである。

そして2つの円盤が重なった時、砲口から歓喜を上げるかのように  
咆哮し、大質量の砲弾を吐き出した。

## ブリュンヒルデの白い悪魔（後書き）

気付いた方はいるでしょう。

ズバリ、ジオニックフロントとそのプログラム「連邦軍新型MS解析」そのものです。

### 元ネタ解説

- ・イグニツションブースト  
ビームライフル

- ・奇襲するも、従来のそれを上回る機動力で回避され、逆に反撃される

シールドで防御され、ビームサーベルで（ry

- ・第4世代のISは、化け物か！？  
シャアの「連邦のモビルスーツは化け物か！」より

- ・サンドラ  
シナリオ後半で追加されるキャラ。（プログラム以外では）フェンリル隊唯一のビームライフル持ち。

- ・第2世代機「トルーパー」  
ドム・トローパー（ただし、名前はなぜか種死のドムタイプ）。

- ・スプレッドビーム  
サポート装備（使用タイプ）のそれ。周囲の敵を約3秒間行動不

能状態にする。

・ラケーテン

バズーカの種類。リロードが長め。

こんなところか。

ちなみにこれ以外のジオニックフロントネタを用意してあったり・・・

ANMARIIDA CORE

アムマリダ・コレ・(前書き)

かなりのやつつけです。

クロスオーバー系ではありません。

ご了承ください。

ANMARRIDA CORE アンマリダ・コレ

初代編

『レイヴン試験』

《認めよう、君の力を。今この瞬間から君はレイヴンだ》

その台詞と共にレイヴン試験に合格した。そのはずだった。

あの機体と台詞が来るまでは

《 と言いたい所だが、君にはとっておきのサプライズがある》

……。

……え？

……サプライズ？

何故に俺が。

真っ先に抱いた感情は疑問。そもそもサプライズがあったとは今まで聞いたことがない。今回から実施されたのか？

そして次に抱いた感情は歓喜。俺が初めてなのか！ツいてるぜえ！  
ヒヤッハアアー！！

最後に抱いた感情は不安。 . . . .ん？何か怪しくねえ？物凄く嫌な予感が . . . .

そしてサプライズが来た。

試験場のゲートから現れたそのシルエットは、ACだった。

そのカラーリングとエンブレムに見覚えがあった。赤と黒のツートーン。オレンジ色の9の数字が刻まれた黒い玉。

. . . .間違いない、ヤツだ。

「ランキングのトップがどうしてここに . . . .!?」

《今回からナインボールが試験に追加されることになった。 . . . .  
・勿論、レプリカだが》

「じよ、冗談じゃ . . . .」

レイヴン試験のエネミーに、ナインボールが追加。



レイヴン試験のエネミーが、ナインボールx。

『レイヴン試験 その4』

《遅かったじゃないか……》

うほっ、いい試験官……。

《やらないか》

ごめんなさい。お断りします。

レイヴン試験のエネミーが、フォックスアイ（LR）。

『レイヴン試験 その5』

《言葉は不要か》

帰れ。

レイヴン試験のエネミーが、00-ARETHA。

『レイヴン試験 その6』

《BIGBOXビッグボックスへようこそ。歓迎しよう、盛大にな!》

よりによって試験会場がビッグボックス屋上ですか。……それにしても、気合い入れすぎ。四方の大砲が全てこちらを向いている。榴弾で歓迎ですね、わかります。

レイヴン試験の会場が、BIGBOX（屋上）。  
かつエネミーが、オープニングとGABG3-TWINCANNON（大砲）×4。

『レイヴン試験 その7』

「口から胃液が逆流する……!」

「・・・ギヤアアアア！」

レイヴン試験時の初期機体が、「X-SOBREIRO」。

終われ。

ANMARRIDA CORE アンマリダ・コレ・(後書き)

ふと思いついて書いた。

書いていてかなり自爆した。腹イテエ……

エルシャダイ × IS (前書き)

かなりのやつつけです。

半分以降はゴリ押しです。

ご了承ください。

エルシャダイ × IS

話をしよう。

あれは今から36万……いや、1万4000年前だったか。

……まあいい。

私にとってはつい昨日の出来事だが、君たちにとってはたぶん、明日の出来事だ。

彼には72通りの名前があるから、なんて呼べば良いのか……  
たしか最初に会ったときは……

『イーノック』。

そう、あいつは最初から言うことを聞かなかった。

私の言うとおりにしていればな……

……まあ、良いヤツだったよ。

山田真耶という副担任にしては背が低く、生徒かと思紛うほどの童顔の持ち主である女性から、自己紹介を促された。……教師

とは思えない低姿勢で。

「……なるほど、私の番か。いつまでも黙っている訳にはいかないの、それに応えた。」

「大丈夫だ、問題ない」

真耶は目を白黒させた。何を言ってるのかわからなかったらしい。そしてそれが何かを理解するとすぐに復帰し、会話を切り上げた。

そして彼の自己紹介が始まった。

「織斑 イーチツカだ」

瞬間、1組に衝撃が走った。

篠ノ之 箒は耐えていた。数年振りに再会した幼馴染の、突っ込み所がありすぎる自己紹介の内容に。彼女の右腕は、それに容赦なく突っ込めと如き唸っていた。それを静めるために彼女は、彼からそっぽを向き、目を瞑り、左手で右腕を抑えた。

（静まれ、私の右腕ッ……！いつものことだ、突っ込むほどのことではないッ……！突っ込んだら負けだっ……！！……ISTD、ISTD、ISTD……）

頼む、早く終わってくれ。と心の中で箒は懇願した。

そんな思いが彼に届くはずもなく、突っ込み所のある自己紹介を続

けた。そして最後に彼は容赦なく我慢という名のダムを、決裂させる台詞を言った。

「大丈夫だ、問題ない」

ダム決裂と同時に、景気の良い音が1組中に響いた。

「まともな挨拶も、ろくにも出来んのかお前は」

「大丈夫だ、問題ない」

もう一度殴る

「あとで再発行してやるから1週間以内に覚える。いいな？」

「大丈夫だ、問題ない」

覚えられるのかよッ！！

「 え、えっと、いや、その、お、織斑君は 」

「 大丈夫だ、問題ない 」

スルーした!?

「 お前の場合は状況が状況なので、データ収集を目的として専用機が用意されることになった。理解出来たか? 」

「 大丈夫だ、問題ない 」

その発言自体が問題な件。

「 私が教えてあげよつか? ISについて 」

「 大丈夫だ、問題ない 」

第涙目。

「最後のチャンスをおげますわ」

「大丈夫だ、問題ない」

セシリアの台詞がカットされました。

白式にミサイルが直撃して

《神は言っている。ここでやられる運命ではないと》

「大丈夫だ、問題ない」

アニメが終了したが

「大丈夫だ、問題ない」

「大丈夫だ、問題ない」  
「大丈夫だ、問題ない」  
大丈夫だ、問題ない」  
大丈夫だ、問題ない」  
大丈夫だ、問題ない」  
大丈夫だ、問題ない」

「大丈夫だ、問題ない」

終われ。

エルシャダイ × IS (後書き)

Q ・こんな短編で大丈夫か？

A ・ 大丈夫だ、(多分)問題ない。

I r o i r o n a n i k a S a r e t e i r u

イロイロナニカ・サレテイ

これはかつてここで短編として投稿したものです。

長編用に改訂される為、再投稿したものです。

ご了承ください。

『自己紹介で』

本来なら、

「                    以上です」

という台詞で終わるはずだった。

よりによってこいつは

「                    いいか、俺は面倒が嫌いなんだ」

と、ほざいた。

そのあと担任による出席簿という名のドーザーナックルを食らい、  
最後列まで吹き飛ばされてその壁にめり込んだという。

余談だが彼が担任に参考書を1週間で覚えると云われた時、

これは……………面倒なことに……………なっ……………た……………

という呻き声と共に机の中で真っ白に燃え尽きたように突っ伏した  
という。

『担任』

これも本来なら、

「 げえっ、関羽！」

という台詞で終わるはずだった。

よりによってまたこいつは

「 ラ、ラーズグリーンズ!？」

と、ほざいた。

そのあと担任は「誰が、おとぎ話の、悪魔だ」と言いながら知識の神の名を冠する某オービタルなフレームのつかみ投げの如く、ジャイアントスイング。そこから手背負い投げに移行し最後列にぶん投げ、再びそいつをその壁にめり込ませたという。

『質問』

これもまた本来なら、

「……………ほとんどわかりません」

という台詞で終わるはずだった。

よりによってさらにこいつは

「……………理解するつもりなど、元よりない」

と、ほざいた。

そのあまりにも容赦の欠片もない、その発言を真正面から受けた副担任はかけていた眼鏡がまるで心が折れたかのように砕け散った。そしてまるで口から魂は吐き出しそうな、というかそのあとショック死するんじゃない？と思うような微かな声で言った。

「じよ、冗談じゃ……………」

しつこいようだがそんな台詞を吐かせるようなことを言ったそいつは、当然の如く担任の制裁という名のスーパードロップキックを食らうのであった。

ふと思いついてやった。

反省も後悔も自重もしていない。

満足はしている。

### ネタ説明

・「いいか、俺は面倒が嫌いなんだ」

アーマードコアプロジェクトファンタズマのスティンガーの台詞より。文字通り面倒が嫌い。CV：速水奨。

・ドーザーナックル

アーマードコアフォーアンスーのドーザーブレードより。威力はそれなりに痛い。だが射程はたったの1。

・「これは……面倒なことに……なっ……た……」

アーマードコアプロジェクトファンタズマのスティンガーの台詞より。燃える……燃えてしまう……

・「ラ、ラースグリーズ!？」

エースコンバット5より。北の海から来る悪魔。ブリュンヒルデと同じくワルキューレの一種。

・「……理解するつもりなど、元よりない」

アーマードコアラストレイヴンのリム・ファイヤーの台詞

「……助けるつもりなど、元よりない」

の改変ネタ。断る時や見捨てる時にどうぞ。

・「じよ、冗談じゃ……」

アーマードコアラストレイヴンのズベン・L・ゲヌビの台詞より。

類義語: 「mjdd?」「驚愕する」

……訳が分からないわ(まどムギ×アーマードロム)(前書き)

ふと思いついて書いた。

反省と後悔はしていない。契約はしている。

……訳が分からないわ(まどマギ×アーマードコア)

私はこれまで気の遠くなるほどの時間を繰り返して来た。

今までにイレギュラーなことがなかった訳ではない。

あったとしてもそれは、大抵は些細なことばかりだった。そう、有り得ないのだ。

だからか、今私は目の前にある現実を、直視することが出来なかった。

……有り得るのか、あんな存在が。

あんなもの……有り得ない、あつてはいけない。

よりよってキュウベエの亜種がいるなんて。

諸事情により音声のみでお送りします。ご了承ください。

「僕と契約して魔法少女になってよ！」

「そちらにとって、悪い話ではないと思いますが？」

「刺激的にやるっぜ」

何これ……ふざけてるの？

以前より質が悪くなっている……

何故だろう……キュウベえがまだマシな存在に見える……

「今すぐ僕と契約を！」

「……慌てるな、すぐに襲われるとは限らんだろう」

何か台詞を潰された気が……

それにしても……エヴァンジェと言ったかしらっ、GJとは  
まさにこのことね。

「訳が分からないよ」

「………理解出来んと見える」

「面倒な奴だ」

!?

「手こずっているようだな………」

「プランD、所謂ピンチですね」

「手を貸そう」

「遅かったじゃないか………」

……アレ？

本当に、あのキュウベエの亜種だよね？それにしても協力的だし。というか、いつの間にかキュウベエが居なくなってるし。

……え？現地とのトラブルが多いから左遷された？あれびジネスだったの！？

結局ワルプルギスの夜を、全員無事の状態で倒しちゃったし。

あれ？私いつの間にか、最初の頃みたいな口調になってる……  
・？

あれれ？おかしいなあ……

混沌戦記まどか ナニカ、始まります

始めるなッ！ byほむら

……訳が分からないわ(まどマギ×アーマードコア)(後書き)

おまけ

さやか：

QBの代わりにエヴァンジェと契約したことで魔女化していないこと以外、変化なし。一番の変化は、あの台詞とその後。

「後は頼んだぞ！」

杏子：

オールドキングと契約したことでThinkerを歌うようになったこと以外、変化なし。

アイムシンカー、トゥートゥー、トゥートゥー……

マミさん：

社長こと有澤 隆文と契約したことで、シャルロットの口に「挟まっちまった」こと以外変化なし。……と思いきや、ワルプルギスの夜との決戦前に生存的な意味で騙して悪いがしていたことが判明。さらにその戦いでティロ・フィナーレの一種にして完成系「グレ・フィナーレ」という技を披露した。

まどか：

もっとも変化が大きかった人物。魔法少女の姿がアクアビットマ

ンで、円環の理の姿がアシユラビットマンというゴジマ汚染患者。QBの天敵、AMIDAを飼っている。

QB：

いつも通りに活動していたが、最後に面倒（事）が嫌いな上司であるステインガーに現地でトラブルを起こしていたことがバレる。それによりある世界に左遷された。

余談だが、その左遷先で物凄く成果を挙げたらしい。

ほむら：

ナニカサレタヨウダ

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8542r/>

---

クロスオーバー・単発系短編集

2011年11月16日22時45分発行